

## とうもろこし(サイレージ用)の適期収穫(登熟の急激な進みに注意)

平成22年9月10日  
北海道農政部

今年は、4月から5月までは、気温は低く推移したものの、6月以降、気温が平年よりかなり高い日が続き、9月に入っても8月並みの気温で推移しており、札幌管区気象台の予報によると、今後1週間程度は気温が高い日が続く見込みとなっている。

また、すす紋病の発生が見られ病斑拡大による栄養価やサイレージ品質の低下が懸念されており、栄養価が高く高品質なサイレージを調製するため、登熟の進みに合わせた早めの収穫準備が必要であることから、以下の技術対策を参考にして適期収穫に努めてください。

### 1 熟度を把握し適期収穫

- (1) 収穫適期は、黄熟期から完熟期(破碎処理等が必要)である。
- (2) 熟度の判定は、ほ場周辺から7~8列(約5m)以上中に入り、4~5本の雌穂で行う。
- (3) すす紋病が発生しているほ場は、黄熟期の収穫とする。
- (4) 破碎処理をしない場合は、子実の消化性低下を招くので黄熟期の収穫を基本とする。

### 2 サイレージ調製作業の準備

- (1) 詰め込みサイロの清掃や消毒を早めに済ませる。
- (2) サイロの被覆シートや添加剤等資材の準備を早急に行う。
- (3) ハーベスター等収穫機械の点検整備、運搬車や作業員の手配を早急に行う。
- (4) コントラクター等作業委託の手配は、ほ場熟度の進みを想定して行う。
- (5) 自走組合など共同作業の集団は収穫開始日や収穫順番の計画策定に取りかかる。

### 3 子実熟度に合わせた破碎処理

- (1) 通常収穫による切断長は黄熟期で10mm程度とするが、完熟した場合は5mm程度とする。
- (2) 機種により破碎程度が異なるので、試運転により子実が確実に破碎されていることを確認し、切断長とローラのすきまを設定する。
- (3) 破碎処理時の切断長は19mmとし、ローラのすきまの設定目安は、黄熟期5mm、完熟期で3mmとする。